

# 日本産ウミウサギガイ科 (腹足綱) の分類学的研究—XIII

補 遺 (2)

東 正 雄\*

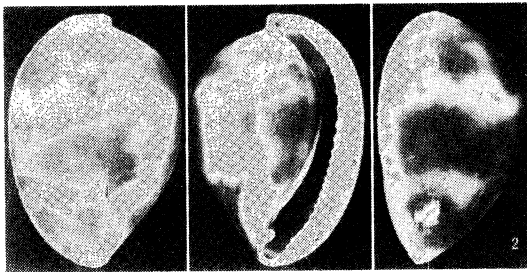
Systematic Studies on the Recent Japanese Family Ovulidae (Gastropoda)—XIII

(Supplement 2) Masao AZUMA (挿図 Text-figs. 1-8)

## ABSTRACT

In this paper, a report thereup to Japanese Family Ovulidae (Gastropoda) that following 6 species already was published since 1975 : *Testudovolva nimbosa* (Cate, 1978), *Dentiovula cardini* Cate, 1978, *Dentiovula diadema* Cate, 1978, *Pseudosimnia (Inflatovula) stigma* Cate, 1978, *Aperiovula takaeopsis* Cate, 1978, *Aperiovula allynsmithi* Cate, 1978

And I report on knowledge of radulae characteristic of *Pseudosimnia (Diminovula) whitworthi* Cate, 1973



Text-fig. 1. アラシカメガタケボリ (After Cate)

### *Testudovolva nimbosa* (Cate, 1978)

アラシカメガタケボリ (和名新称)

(Text-fig. 1) (After Cate)

1978 *Galeravolva nimbosa* Cate, *Venus*, 37(4), 192-193, 199, pl. 1, fig. 2

殻はやや大きく (模式は殻長11.3 mm, 殻径6.8 mm, 殻高4.7 mm) 卵形, よく膨れる。前後端は殆ど突出せず, 背面著しく光沢があり, 嘴状部に弱い螺条が若干ある。底面は著しく膨出し有光沢。殻口はやや広くゆるく湾曲し, 前方へ僅かに広がる。軸唇窩は深まらないで真珠質で少し湾曲した管状の溝が現れる。

外唇はやや幅広く, 歯は27。殻の地色は淡灰色, その上に不規則に褐色雲状斑がある。両末端, 側縁, 外唇や歯は象牙白色。

模式産地: 紀伊水道 (北緯33° 42', 東緯135° 15')

\* 宝塚市宝梅1-13-7

(原文31° 10' Nは誤りである), 水深70~90m。

比較: クモリカメガタケボリ *T. nebula* (Azuma & Cate 1971) に類似するが, 背面の色斑が著しく異なる。殻の幅が広い。外唇歯が多い。



Tex-fig. 2. カーデン コボレバケボリ (After Cate)

### *Dentiovula cardini* Cate, 1978

カーデン コボレバケボリ (和名新称)

(Text-fig. 2) (After Cate)

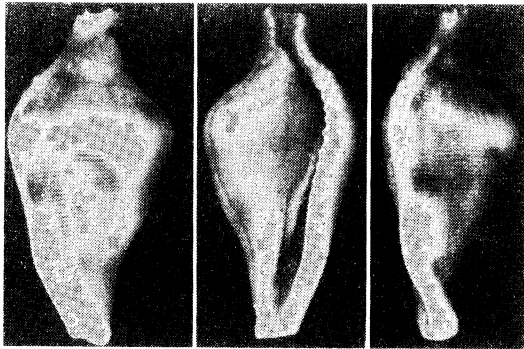
1978 *Dentiovula cardini* Cate, *Venus*, 37, (4), 193-194, pl. 1, fig. 3

殻は中形 (模式は殻長10.0 mm, 殻径5.0 mm, 殻高4.3 mm), やや菱形中央近くの幅最大で前方へ細くなる。背面には横条が刻まれる。嘴状部は方形に近く嘴状先端には著しい歯があり, 前溝端にも不明瞭な歯がある。背面の螺条は底面や, 軸唇にもつづく, 底面やや狭く紡錘形, 肥厚して隆起となる。軸唇窩は掘れないが, 内方の隆起線が軸唇となる。殻口はやや真直, 外唇は広く平坦で軸

の方へ傾く。歯は粗く、前方の2~3, 後方の5~6は大きく後唇縁をこえる。殻の基色は淡黄褐色で不規則な暗褐斑が不明瞭に散在する。

模式産地：紀伊水道（北緯33° 42′, 東緯135° 15′）(原文の31° 10′ Nは誤りである)。

比較：この種はアズマコボレバケボリ *D.masaoi* Cate, 1973に類似するが、殻が小形であり、後嘴状部の構造が異なり、背面が丸みであり、外唇歯は強く均一、歯式も異なり、殻の色彩も異なる。



Text-fig.3 カムリコボレバケボリ (After Cate)

*Dentiovula diadema* Cate, 1978

カムリコボレバケボリ (和名新称)

(Text-fig.3) (After Cate)

1978 *Dentiovula diadema* Cate, Venus, 37, (4), 194-195, pl. 1, fig. 4.

殻は小形、(模式は殻長8.0mm, 殻径4.7mm, 殻高3.5mm) 中央付近やや膨らむ、やや菱形両端狭く突出る。後溝端は歯状欠刻がある。背面螺旋彫刻があり、軸唇までであるが、底面にはない。底面はやや膨れ、前方へやや隆起する。殻口狭く湾曲し、外唇湾曲するのでその前方やや広がる。軸唇窩はやや深く、隆起は低いがやや厚く、前方嘴に至らない。外唇歯の後方 $\frac{2}{3}$ はやや膨出し、前方 $\frac{1}{3}$ は平坦で無歯である。後部の歯はやや大きく粗いが、不明瞭となる。殻色は淡い黄灰色で淡褐色の不規則の斑紋がある。

模式産地：紀伊水道（北緯33° 42′, 東緯135° 15′）(原文の31° 10′ Nは誤りである)。

比較：この種はヒメコボレバケボリ *D.parvita* Azuma, 1974によく似るが、殻が小さいこと、後部歯の配列が異なり、軸唇隆起は大きく、色彩も異なるなどによって区別できる。

*Pseudosimnia (diminovula) whitworthi* Cate, 1973

バライロケボリ (東)

(Text-figs. 4-5)

1970 *Prionovolva brevis* (Sowerby, 1828). Azuma, Venus 28(4), : 179 : Text-fig. 2.

1973 *Pseudosimnia (Diminovula) whitworthi* Cate, Veliger, 15, Supplement, 30, fig. 58.

1976 *Pseudosimnia (Diminovula) whitworthi* Cate, 1976. Azuma, Venus, 35, (3), : 112, fig. 4: pl. 1, fig. 7.

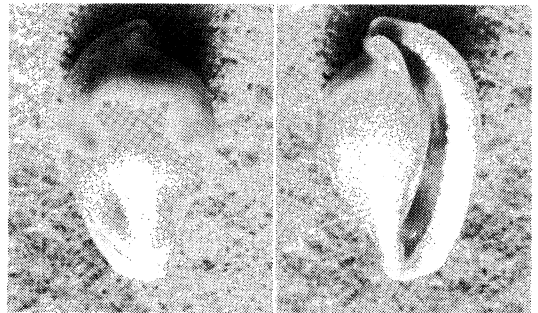
歯舌：既に1976に記述したが若干下記に追加する。中歯の中歯尖は著しく伸び、やや太く先端へ次第に細かく鋭く尖る。両側小歯尖は6対で、最内側は最小、内側より第五小歯尖が最大になり、最外側は、やや著しく小形となる。

側歯：やや曲ったアロエ葉状形、その基部の外側はやや曲り匙状で後側方へ少し伸びる。又基部の内側は小刺状となる。前端は著しく鋭く内方へ湾曲する。その外側に1~2個の小歯尖がある。

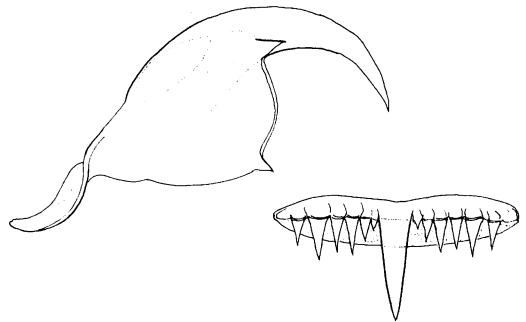
和歌山県南部堺漁場沖 2-4 km, 水深30~50m内外,

Date : 28. Feb. 1978.

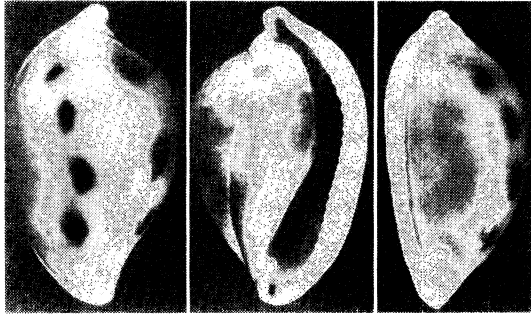
分布：南紀（潮岬オゴクダ沖以西名田沿岸）、大分県深島沖、奄美大島（山本愛三）。



Text-fig.4. バライロケボリ (♀) 殻長14.5mm, 殻径8.8mm, 殻高7.8mm)



Text-fig. 5. *Pseudosimnia (Diminovula) whitworthi* Cate, 1973 バライロケボリ (東) (♀) 歯舌：中歯と側歯。



Text-fig.6 モンセロガタケボリ (After Cate)

*Pseudosimnia (Inflatovula) stigma* Cate, 1978

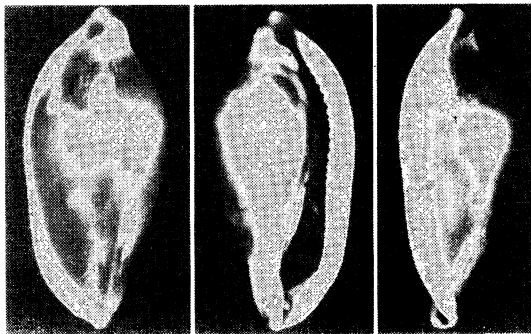
モンセロガタケボリ (和名新称)

Text-fig.6 (After Cate)

1978 *Pseudosimnia (Inflatovula) stigma* Cate, *Venus*, 37, (4), 196-197, pl. II, fig. 6

この種はセロガタケボリ *P. (I) culmen* Cate 1973に類似するが、小形 (模式は殻長 9.4mm, 殻径 5.5mm, 殻高 4.8mm)、螺条が著しくない、殻の背面に7個の暗褐色の斑点が縦に並んでいる、殻の周縁に金色の環状線がない、などの異点がある。

模式産地: 紀伊水道 (北緯33° 42', 東緯135° 15') (原文の31° 10' Nは誤りである)。



Text-fig.7 オオタカキヌハダツツミ (After Cate)

*Aperiovula takaeopsis* Cate, 1978

オオタカキヌハダツツミ (和名新称)

Text-fig.7 (After Cate)

1978 *Aperiovula takaeopsis* Cate, *Venus*, 37 (4) 198, 200, pl. II, fig. 8

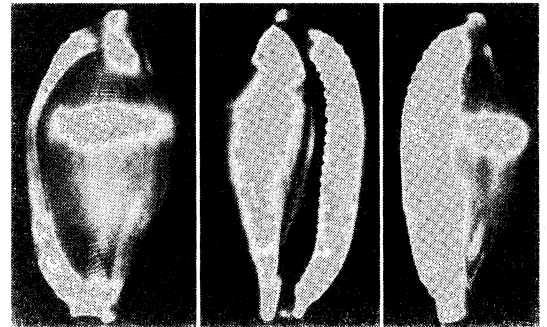
殻はやや大きく (模式は殻長11.7mm, 殻径 5.5mm, 殻高 4.4mm) 菱卵形, 前方は鈍端, 後方はさじ状, 背面平

滑, 有光沢, 螺条が両端近くにある。底面は狭く中央付近は幅広いが、急に隆起状となり前方へ細くなる。殻口狭く、中央付近は真直である。その前後は左へ湾曲する。軸唇窩は深くなくその壁は三つまたとなる。外唇は狭く異なる27歯がある。殻色は紅褐色で淡いベージュの1横帯がある。

内方の隆起, 滑層域, 外唇は暗い象牙色, 両端と水管溝は鮮橙色。

模式産地: 紀伊水道 (北緯33° 42', 東緯135° 15') (原文の31° 10' Nは誤りである), 水深80m。

比較: この種はタカキヌハダツツミ *A. takae* Cate 1973に酷似するが、殻が大きい。外唇歯は小さく27 (タカキヌハダツツミは18) である。



Text-fig.8 アリンスミス キヌハダツツミ (After Cate)

*Aperiovula allynsmithi* Cate, 1978

アリンスミス キヌハダツツミ (和名新称)

Text-fig.8 (After Cate)

1978 *Aperiovula allynsmithi* Cate, *Venus*, 37(4), 197-198, 200, pl. II, fig. 7.

殻はやや大型 (模式は殻長10.3mm, 殻径5.2mm, 殻高 4.0mm) 菱~やや卵形, 光沢あり, 背面中央の1/3に螺線がない。後嘴底部に滑層瘤著しく突出る。底面菱形, 中央よりは角ばり前方へでる。後端髯は三角形, その頂部は平坦となる。殻口はほぼ等幅なるも, 前方外唇はやや広まる。軸唇はやや広く浅いが, 軸唇窩で深くなる。外唇歯の後方1/3は強いが, 前方は弱い。

殻色は淡紅灰色, 狭い灰白色の横帯がある。嘴状部は橙褐色, 側縁, 底面, 外唇, 外唇歯は暗い象牙色がかったベージュ色。

模式産地: 紀伊水道 (北緯33° 42', 東緯135° 15') (原文の31° 10' Nは誤りである)。水深80m。

比較: この種は *A. takaeopsis* Cate オオタカキヌハダツツミに類似するが、殻は小さく、鋭く尖り、背面隆起は鋭く、底面の丸み少なく、末端髯は大きい。外唇歯の配列も異なる。